

# 松崎市長新春インタビュー「小浜を研く！笑顔あふれるまちに」

福井しあわせ元気国体・元氣大会に沸き、早期開業を目指す北陸新幹線や、歴史と伝統ある「食」を生かしたまちづくりに取り組んだ平成30年。そして未来へのさらなる飛躍を、松崎市長が語る――

**市長** 私は就任3期目の公約として「小浜を研く」を掲げ、①産業をみがく、②観光をみがく、③文化・教育をみがく、④生活をみがく、⑤行政をみがくの実現ため、各種施策を進めています。

## 「産業をみがく」について

**市長** 産業振興と雇用創出について、高水準の有効求人倍率が続く中、若者のUターン就職促進につなげるため、大学生やその親御さんを対象とした企業説明会などを実施します。

企業誘致について、これまで植物工場の誘致により、市内の雇用の確保・拡大を図ったところです。昨年からの春にかけても新たな工場が操業を開始し、2社で約40人の新規雇用を見込んでいます。

農業振興について、昨年は市内各地で地域農業の将来を見据えた話し合いが行われ、農地集約が進みました。今年は、飯盛地区の長年の悲願であった土地改良事業が開始される

予定で、効率的で収益性の高い農業経営への転換が可能となることから、今後の事業発展に大きな期待をしているところです。

水産振興については、「鯖、復活」プロジェクトが順調に規模を拡大し、昨年は鯖街道で縁の深い京都の酒蔵で製造された酒かすをエサに混ぜて育てた「小浜よっぱらいサバ」として本格出荷を開始し、過去最多の出荷尾数を記録することができました。

昨年11月には、小浜水産高校の生徒が、「鯖街道を宇宙へ」をキャッチフレーズに手掛けた「サバ醤油味付け缶詰」



JAXAの「宇宙日本食」に認証された「サバ醤油味付け缶詰」を試食

詰」が、若狭高校海洋科学科に引き継がれ、12年もの年月をかけ、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の「宇宙日本食」に認証されました。高校生が開発した食品の認証は史上初の快挙であり、長年の努力が結実した、本当に素晴らしいことであると思っています。

農林水産業の発展には、新たな担い手の育成が重要です。市外から就農希望者を受け入れる「おばまアグリスクール」や、関係機関と連携し漁業者を育成する「水産カレッジ」、小中学生に農林水産業の魅力を伝える「総合学習プログラム」などを展開し、将来の担い手育成を支援しています。

内外海地区では、水産業の振興と地域活性化に向けて、旧田島小学校を改修した水産業活性化の拠点施設や、教育旅行の拡充など、地元住民による各集落の特色を生かした取り組みが進んでおり、本市としても成果につながるよう、今後も支援したいと考えています。

## 「観光をみがく」について

**市長** 本市では、北陸新幹線敦賀開業に向けたJＲ小浜駅前の環境整備の第

の児童数も306人と、本市最大規模の小学校となります。

## 「生活をみがく」について

**市長** 防災について、近年頻発している集中豪雨などから市民の生命・財産を守るため、早めの避難所開設や、雨水きよの整備を進めます。

空き家対策については、平成29年度から倒壊など著しく危険となるような「特定空家」に6件を認定し、2件は所有者により解体されており、残る4件についても、所有者などに対し、適正な管理を指導していきます。また、昨年4月から実施している老朽空家等の解体補助についても6件の申し込みがあり、順次解体を行っています。

本市の高齢者人口は29年度にピークを迎え、ひとり暮らし高齢者や、高齢者のみの世帯が増加しています。住み慣れた自宅で最後まで暮らしたいというニーズを踏まえ、デイサービスの定員の拡充を行ったほか、一つの事業所で介護サービスと医療サービスを一体的に管理し提供できる「看護小規模多機能型居宅介護」の創設に向けて準備を進めています。

## 「行政をみがく」について

**市長** まちづくり協議会は、地域課題の解決や地域資源を生かした取り組みを行っていることから、地域の発展のために欠かせないものであり、本市もその活動を今後も支援していきたいと考えています。今後、協議会の活動の幅が更に広がるよう、公民館をコミュニケーションセンターに移行したいと考えており、学識経験者を含めた検討委員会を立ち上げて検討を進めています。

広域ごみ焼却施設については、若狭町以西の4市町で広域化による課題解決に取り組んでいます。建設用地の選定や、開発による周辺環境への影響調査を行っており、できるだけ早い施設



聞き手／坂口 みゆき アナウンサー  
(チャンネルO・12月17日)



まちづくり協議会では、防災や世代間交流など、地域の課題解決に取り組む

## 今後の抱負は

**市長** 昨年開催された「福井しあわせ元気国体・元氣大会」は、ボランティアや観戦に多くの市民が参加し、「オール小浜」の底力を痛感しました。このエネルギーを、市民一人ひとりが、今後のまちづくりに生かしていただきたいと期待しています。

平成から元号が改まる今年、小浜の歴史、文化に裏打ちされた資源をさらに引き上げ、小浜で育った子どもたちが帰りたいくなる、笑顔あふれる住みよいまちにしていきたいと思っています。

## 国体で感じた「オール小浜」の底力 まちづくりに生かす

れており、今後ゲートウェイ機能を向上させていきたいと考えています。

## 「文化・教育をみがく」について

**市長** 昨年5月、古くから港町として栄えた本市を象徴する文化遺産群が「北前船寄港地・船主集落」として日本遺産の認定を受け、平成27年に認定された「御食国若狭と鯖街道」に続き、県内唯一のダブル認定となりました。「食」に関わる2つの日本遺産を生かしたまちづくりを、食のまちづくりと結びつけ推進していきます。

東部4校が統合される「小浜美郷小学校」の開校に向けては、昨年9月末までにすべての工事が完成しました。敷地面積は約2万8800㎡、開校時



## 歴史と文化に裏打ちされた小浜の魅力が輝くまちへ